



1993年カンヌ国際映画祭  パルムドール大賞・主演女優賞
ジェーン・カンピオン監督・脚本作品

ピアノ・レツスン

PIANO 

CIBY 2000 PRESENTS A JAN CHAPMAN PRODUCTION
ホリー・ハンター、ハーヴェイ・カイテル、サム・ニール

アンナ・バキン、ケリー・ウォーカー、ジュヌヴィエーヴ・レモン

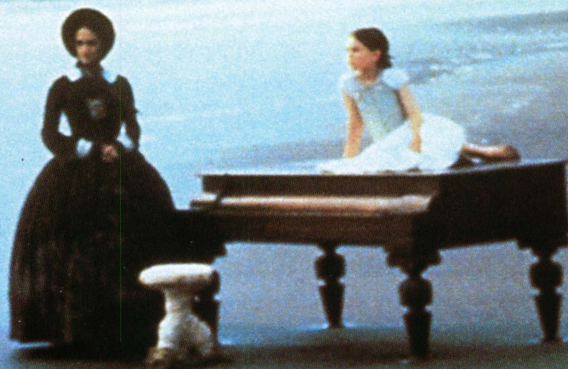
衣装=シャネット・バターン/録音=リースミス/音楽=マイケル・ナイマン/編集=ヴェロニ
カ・ジネット/美術=アンドリュー・マッカルバイン/撮影=スチュアート・ドライバラ/アソシエ
イト・プロデューサー=マーク・ターナル/エグゼクティブ・プロデューサー=アラン・ド
バルデュー/製作=ジェーン・チャップマン/監督・脚本=ジェーン・カンピオン ● DEVELOPED
WITH ASSISTANCE OF THE AUSTRALIAN FILM COMMISSION, NEW SOUTH WALES FILM AND TELEVISION
OFFICE ● カイト・ブック=新潮文庫刊、サントラ=東芝EMI  オーストラリア映画
©1993 JAN CHAPMAN PRODUCTIONS & CIBY 2000

提供=フランス映画社、日本ビクター/配給=フランス映画社、川喜多和子退社、ハウシリーズ作品



燃えあがる愛の……ピアノは私。

浜辺に置き去られた1台のピアノが
無言のエイダとふたりの男の
激しい愛のロマンを奏でだした……
●エロティックで、神秘的で、繊細さに
あふれた映像美=米<ニュース・ウィーク>
カンヌ映画祭で最高賞を一挙受賞
全世界で大ヒットの愛の名作です





1993年カンヌ国際映画祭
パルムドール大賞
主演女優賞受賞

ピアノ・レッスン

ジェーン・カンピオン
監督・脚本作品



フランス映画社配給
川喜多和子追悼
バウ・シリーズ作品

PIANO

カンヌが燃えた! 喝采の嵐に包まれて

'93年5月、カンヌ映画祭は強力なパルムドール大賞(グランプリ)候補の噂で開幕前からざわめいていた。噂の映画は、「エンジェル・アット・マイ・テーブル」で知られる、若干38才の女性監督ジェーン・カンピオンによる大作「ピアノ・レッスン」。前評判がよすぎると、本命倒れの危険もあるのがカンヌだが、「ピアノ・レッスン」は騒然とした期待のなか、カンピオン監督、主演のホリー・ハンター、サム・ニール、ハーヴェイ・カイテル、音楽のマイケル・ナイマンを迎えて行われ、満場の人々の期待は、2時間の上映後、驚きと興奮と感動に変わった。

1台のピアノをめぐる女と男のエロティシズムと香り高いロマンをあふれさせた本作品は“完璧な大作”と評価され、堂々のパルムドール大賞とホリー・ハンターの主演女優賞のダブル受賞に輝いた。カンピオン監督は、女性監督としても豪州映画としても初の大賞受賞、そして長短編両部門のカンヌのグランプリ制覇という3つの快挙をなし遂げたのである。この直後に封切って、250万人動員という、年度第2位の大ヒットとなったフランスを皮切りに、世界各国で驚異的な大ヒットを記録中。アカデミー賞でも強力候補だ。



ピアノの調べが奏でる愛と官能の炎!

19世紀半ば。スコットランドからニュージーランドへ娘フロラとピアノとともに写真結婚で嫁ぐエイダ。6才の時から口がきけない彼女にとって、ピアノは言葉であり全てだった。そのピアノを夫は重すぎると浜辺に置き去りにし、原住民と同居している男ペインズの土地と交換してしまう。ペインズはエイダに、レッスンを引き替えにピアノを返すと言う。1回につき黒鍵をひとつずつ。エイダが奏でる甘美な調べは、いつしか激しい愛と官能の炎を燃え上がら

せていく——。

魅惑的人物を演じた名優3人と子役!

“忘れたいヒロインの誕生”——一言も喋らないことを忘れてしまうほど表情豊か”と絶賛を浴びているエイダ役のホリー・ハンターは、「ブロードキャスト・ニュース」「ザ・ファーム 法律事務所」とはがらりと変わって、セリフのない難役。自ら弾くピアノのプロ級の牙えも驚かせるが、清楚な美しさから激しい愛の情念をたぎらせる名演だ。カンヌに続き、早くもアカデミー主演女優賞最有力の噂が高い。

野性の男ペインズ役のハーヴェイ・カイテルは「タクシー・ドライバー」などの特異な役柄から一変、ナイーブな荒々しさに深い優しさをにじませる。

「ジュラシック・パーク」のサム・ニールもまた、夫スチュアートの難役を柔軟に演じきって強い印象を残す。そして3人の名優の熱演にひけを取らないのが9才の娘フロラ役のアンナ・パキン。ホリーと対をなして大いなる存在感を示す。

企画10年、新しい愛の伝説の誕生!

「嵐が丘」にたとえられる、壮大なスケールと凄絶な情念の見事な脚本は、監督ジェーン・カンピオンのオリジナル。ヴェネチア映画祭で審査員特別賞を受賞した「エンジェル・アット・マイ・テーブル」に続く最新作だが、10年前からの念願の企画が遂に実現したもの。ニュージーランドの、地の果てを想わせる寂寥感に包まれた海辺や、菌糸の森が神秘的で美しい撮影はスチュアート・ドライバラ。製作のジェーン・チャップマンは、自身監督もするカンピオンの親友。そして、この映画の重要な鍵となる甘美極まりない音楽は、「英国式庭園殺人事件」などでおなじみのマイケル・ナイマンで、ホリー・ハンターがピアノ・ソロの見事な腕前を堪能させてくれる。



★神秘的でエロティックで、どこまでも繊細さにあふれた映像美。カンピオンは現代最高の映画監督の一人。<米ニューズ・ウィーク誌>★完璧な勝利。実に素晴らしく、強烈で感動的で、そのうえ実に独創的。<米・ニューヨーク・タイムズ紙>★見事に熟しきった傑作。<仏・ポジティブ誌>★澄みきった宝石のように輝いている。<仏・ステュディオ誌>

一般映画制限付®<中学生以下の方入場できません>

2月19日(土)より
ロードショー!

特別鑑賞券¥1400 発売中
ペア券¥2600(劇場窓口のみ)

アカデミー賞最有力!

ロサンゼルス映画批評家協会賞:最多5部門受賞
ニューヨーク映画批評家協会賞:最多3部門受賞
豪州アカデミー賞史上最多11部門独占受賞

有楽町マリオン9F

日劇プラザ (3574) 1131

渋谷道玄坂・109前

渋谷シネタワー (5489) 4210